

☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・

生活環境の
破壊を
許すな!

サクラソウ

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19

内本町松屋ビル10 370号

TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121

E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp

URL http://oskougai.com/

発行責任者 金谷 邦夫

年間購読料一部2,000円(送料共)

本腰を入れれば 自然エネルギーは確実にすすむ

原発ゼロの会が堺・臨海部の自然エネルギー施設見学会

自然エネルギーの推進は、地域で市民が参加してすすめるのが基本ですが、企業の取り組みを知ることも大事なことで、2月19日、原発ゼロの会・大阪の「堺・臨海部の自然エネルギー施設見学会」が行われました。参加したのは約40人。



26haに7万4千枚のパネル

最初に関西電力のPR館“エルクールさかいこう”で説明を受けた後、早速バスで堺太陽光発電に。ここは26haの土地に7万4000枚のパネルを敷き詰め、1万kWの出力、“日本最大級の規模”と自負するメガソーラー発電所です。26haとは甲子園球場の5個分、大阪城公園の4分の1もの広さで、それは壮観でした。しかし、それでも一般家庭の約3000戸分の年間電気使用量を賄うに過ぎません。このような広大な空き地が無限にあるわけではなく、やはり“太陽光”では各家庭やビル、公共施設などの屋根、屋上を活用した、地域での発電が不可欠と感じました。

原発2基分の火力発電所

次いで訪問したのが堺港発電所。高速道路を走ると臨海部に直線的に並ぶ6本の煙突とその脇に2本の煙突（実際は5本）が見えますが、6本は旧式の火力発電所で停止中。現在はその北側でコンバインドサイクルの火力発電が5基

(1基40万kW)

が稼働していました。コンバインドサイクルとは図のように、ガスタービンと蒸気タービンの二つの発電方法を組み合わせたもので、熱効率も従来の火力発電の41%から58%に

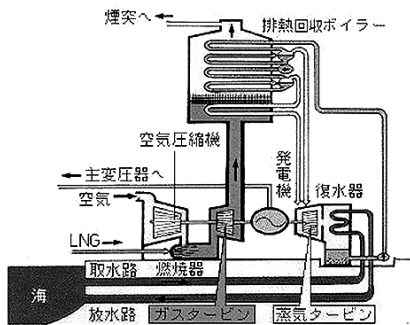


図1. コンバインドサイクル発電の仕組み
電気事業連合会ホームページより

アップ、CO₂の排出も30%ほど削減されると説明されていました。5基で200万kWとは原発2基分にも相当します。しかも出力調整が容易なので、ベース電源とともに緊急時の電源として活用できると思いました。

建設廃材からエタノール

午後に訪れたのは、株式会社DINS堺のバイオエタノール事業所です。ここでは建設廃材を原料に、集めた廃木材を細かく破碎してチップにし、加水分解・発酵・濃縮・蒸留・脱水などの工程を経て、最終的にはエタノールを製造するというものです(図参照)。あのカサカサの建築廃

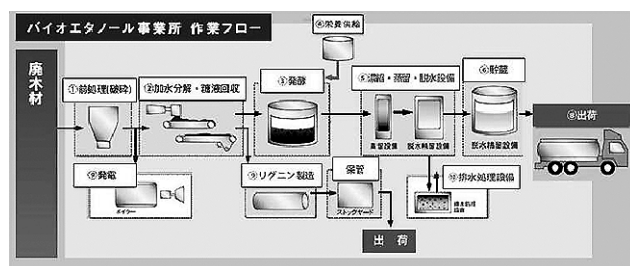


図2. バイオエタノール事業所の作業フロー
株式会社DINS堺のホームページより

材から液体のエタノールができるとは、なかなか想像できませんが、実際に製造し自動車の燃料として出荷していました。建築廃材を扱う場合にはアスベスト対策が重要ですが、いずれにしても日本のように木造家屋が多い国にあっては大いに普及すべき技術ではないでしょうか。

国が原発などキッパリやめて、自然エネルギーの推進に本腰を入れて取り組むことを決定すれば、民間でも企業でも自然エネルギーの推進・普及は急速に、確実にすすむとの感じた見学会でした。

(中村毅)